校長先生のお話 №.7

~ 何のために牛きる ~

ぼくらはみんな 生きている 生きているから 歌うんだ ぼくらはみんな 生きている 生きているから 悲しんだ

「手のひらに太陽を」という歌ですね。この歌の歌詞を作った人が「やなせたかし」 さんです。聞いたことがあるでしょう。そうです。「アンパンマン」の作者です。

やなせさんは、マンガ家としてあまり売れませんでした。ずっとヒット作が出ない日が続いたそうです。 でも描きたいテーマはあふれていました。

そのころ日本は受験戦争(じゅけんせんそう)といって、子どもたちが、学校が終わって夜の10時、11 時くらいまで塾(じゅく)に通うような時代でした。ざんこくなシーンがたくさん出てくるマンガやテレビ がはやり、思いやりとかやさしさがどんどん失われていることに、やなせさんはとても心配していました。

> やなせさんは「やさしさがあふれるマンガをかきたい」と強く思いました。 そこで思いついたのが、「かっこわるいけど、やさしいヒーロー」がかつやく するマンガです。おなかをすかせた人のために、自分の顔を食べさせてあげ るアンパンマンです。

ところが本が売り出されると「顔を食べさせるなんて、ざんこくです。」と たくさんの苦情(くじょう)がやなせさんにとどきました。そのせいで、次の本は出せなくなりそうでした。 でも、「このマンガを読むと勇気づけられる。」という声もたくさん聞こえてきて、ついに第 2 作目が出せ ることになりました。こうしてアンパンマンは国民的なマンガになったのです。

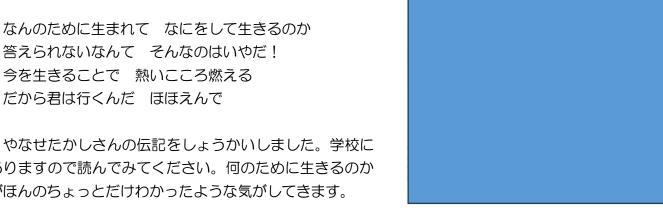
2011年、東北地方を中心に大きな地震(じしん)が来ました。2万2千人以上の方がなくなり、もっ と多くの方がひなん所くらしになりました。「日本がこんなひどいことがあったのに、マンガをかくことし かできないぼくはダメな人間だ」と、やなせさんは悲しい気持ちでいっぱいでした。でもひ害が大きかった 地域のラジオ局にある曲のリクエストがたくさん来るようになったのです。「アンパンマンのマーチ」です。

「はじめて聞いたけどはげまされた」「ずっと悲しんでいた子どもが笑った」という手紙が届いたのです。

やなせさんはその前から重い病気にかかっていました。「もうマンガはやめよう」そう思っていましたが、 その手紙を読んで「引退(いんたい)はやめだ。アンパンマンといっしょにみんなを助けるんだ」と、病気

の体で無理をしていろいろな活動をしました。とうとう病 院のベッドでマンガをかき続け、2年後になくなりました。 最後の言葉は、「みんなありがとう。」だったそうです。

ありますので読んでみてください。何のために生きるのか がほんのちょっとだけわかったような気がしてきます。



秋の夜長、こういう本をお子様に借りてきてもらい、いっしょにページをめくるじかんをつくってみてはどうでしょう か。なかなか小学生までしかできない経験だと思います。